

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/図/表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
藤原	全般				「要求応答スペクトル」と略語「RRS」が混在しているため、統一した方が良いのではないかと。	いずれかに統一する	国際規格通りにしており、誤解が生じるわけではないので、原案通りとしたい。
藤原	全般				「ゼロ周期加速度」と略語「ZPA」が混在しているため、統一した方が良いのではないかと。	いずれかに統一する	国際規格通りにしており、誤解が生じるわけではないので、原案通りとしたい。
加藤	212	3.12		ed	“地球上の加速度は、”とあると、これが主語のように読めるので、そうならないように言い換える	地球上の加速度は、高度及び緯度によって変化する、地球の重力による標準加速度 → 高度及び緯度によって変化する地球上の加速度であり、地球の重力による標準加速度	修正案に同意して修正致します。
加藤	350-351	4.1	第 6 段落	ed	“地震環境が周知であるか、”は何と並記されているのか分かり辛い。次の三つが“及び/又は”で並記されているのか？ ・地震環境が周知 ・要求される応答スペクトル ・時間歴が製品規格に指定されている	地震環境が周知であるか、要求される応答スペクトル及び/又は時刻歴が製品規格に指定されている特別耐震試験クラスの対象となる機器の推奨耐震試験方法を記載している。 → 地震環境が周知であるか、又は(及び?) 要求される応答スペクトル及び(並びに?) 若しくは時刻歴が製品規格に指定されている特別耐震試験クラスの対象となる機器の推奨耐震試験方法を記載している。	ご指摘に同意して、次のように修正致します。 「地震環境が周知であるか、又は要求される応答スペクトル及び/又は時刻歴が製品規格に指定されている特別耐震試験クラスの対象となる機器の推奨耐震試験方法を記載している。」
藤原	318 495	3.33 8.2.3			「試験応答スペクトル」の略語「TRS」を本文では 495 行でのみ使用しているが、「試験応答スペクトル」とするか、TRS を使用する場合は、用語の定義 3.33 (319 行) にも略語を記載した方が良いのではないかと。	いずれかにする	試験応答スペクトル (TRS) とします。
加藤	407	5.4	最終行	ed	“試験振動数範囲を縮小してもよいが、その場合は、問題がないことを証明してもよい。”とあるが、縮小しても、証明しなくてもよいとも読めるが、縮小を許容する条件が証明なのではないのか？	試験振動数範囲を縮小してもよいが、その場合は、問題がないことを証明してもよい。 → 試験振動数範囲を縮小してもよいが、その場合は、問題がないことを証明する。	対応国際規格は、“should”なので、他の表現と合わせて、「証明するのが望ましい。」と修正致します。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/図/表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
加藤	409	箇条 6	1 行目	Ed	“望ましい試験波形”という表現は判り辛い	望ましい試験波形は、次の規格に従う。 → 次の規格に従う試験波形を用いるのが望ましい。 又は → 推奨する試験波形は、次の規格による。	同意して、“推奨する試験波形”と修正致します。
加藤	453	8.1.1	細別 c)	ed	“要求地震”とあるが、定義語にもないようだが、これは何を示すのか？	？	参照している 8.1.2 から遭遇すると予測される地震と解釈されるが、現行 JIS においても“要求地震”が使用されているので、原案のままとする。
加藤	462	8.1.2	第 2 段落 1-2 行目	ed	“それぞれの試験の継続時間は、…時刻歴の強部以上”とあるが、“時刻歴の強部”は時間なのか？	それぞれの試験の継続時間は、…時刻歴の強部以上 → それぞれの試験の継続時間は、…時刻歴の強部の継続時間以上	時刻歴の強部は、用語の定義で「瞬時値が最大値の 25 % に達した時点から最後に 25 % に落ちた時点までの時刻歴の部分」となっており、時間に対応していることはわかるので、原案通りとする。
加藤	487-488	8.2.3	第 1 段落 第 1 文目	ed	“多くの場合”と“フィルタリングを表す場合”とで、“場合”が重複しているので、片方削除	多くの場合、要求される運動は、…フィルタリングを表す場合がある。 → 多くの場合、要求される運動は、…フィルタリングを表すある。	「…の場合」が重複するが、条件が重なっているわけではないこと、また、修正案は不自然なので、原案通りとする。
加藤	521	8.3.2	2 行目	ed	単位と用語を混在させない	oct/分 → oct/min (579 行目はこの表現)	修正案に同意。
加藤	605-612	9.3.1	細別 1)~3)	ed	インデントの位置が 602 行目の細別 c)の内容の位置にある	細別 c)の内容でないなら、細別 1)~3)のインデントを調整する [細別 a)~c)と同じ位置]	ご指摘に同意して修正致します。
加藤	668	10.2	第 2 ダッシュ ユ	ed	字抜け？	単軸励振だけさらされる → 単軸励振にだけさらされる	単軸励振だけにさらされると修正致します。
加藤	752-753	12.1	2-3 行目	ed	何が“不可能”なのかが分からない。また、文末	機器の使用条件が未知である場合には不可能で	修正案に同意して修正致します

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/図/表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
					に出てくる“可能”と表現的に対となって見えるので、“不可能”という表現を変えてはどうか	あるが、…選択することが可能である。 → 機器の使用条件が未知である場合には適用できないが、…選択することが可能である。	す。
藤原	778～	12.2.5			表-3の地震活動域にはゾーン0があるが、782行以降はゾーン0の記載がないのはなぜか。	質問です	表3の地表加速度が0m/s ² のため、ピーク変位、ピーク速度、ピーク加速度が全て0だからではないでしょうか。
加藤	784 785	12.2.5	ゾーン1の 第2・第3 細別	te	fが1.6 Hzのときは、どちらの値を採用するのか？ それとも両方の値を採用するのか？	→ 0.8 Hz ≤ f < 1.6 Hz (第2細別) 又は - f > 1.6 Hz (第3細別)	振動は、変位、加速度、速度の3つで指定されます。2つが決まれば、もう一つは自動的に決まります。図10において、1.6Hzの値を確認すると、ピーク速度とピーク加速度の値が、独立して求まり矛盾しないので、原案通りとする。
加藤	788 789	12.2.5	ゾーン2の 第2・第3 細別	te	fが1.6 Hzのときは、どちらの値を採用するのか？ それとも両方の値を採用するのか？	→ 0.8 Hz ≤ f < 1.6 Hz (第2細別) 又は - f > 1.6 Hz (第3細別)	
加藤	796 797	12.2.5	ゾーン3の 第2・第3 細別	te	fが1.6 Hzのときは、どちらの値を採用するのか？ それとも両方の値を採用するのか？	→ 0.8 Hz ≤ f < 1.6 Hz (第2細別) 又は - f > 1.6 Hz (第3細別)	
加藤	798	12.2.5	第3段落	ed	“採取した”、とあるが、引用では？	表D.1から <u>採取</u> した→ 表D.1から <u>引用</u> した	修正案に同意して、修正致します。
藤原	809	12.2.5			「地震活動域ゾーン0には地震要求事項は設けられていない」とあるが、「地震要求事項」は一般に使われている用語か。地震への耐力に対する要求事項の意味か。	質問です。	ご指摘の通り、「地震への耐力に対する要求事項の意味です。」 earthquake requirements for class 1 など一般的に使用されている。
加藤	836	13.1	第3段落 2行目文末	ed	“動作を強制する”とあるが、“強制”は用いない方がよいのでは また、“試験手順”が“動作を強制”するのか？ 主語である“試験手順は”と述語が合うようにす		次のように修正します。また、振動表は振動台の間違いです。 「試験手順では、振動台を使

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/図/表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
					る		用して、機器に規定する合成波形の動作に従わせる。」
加藤	847	13.2.1	第2段落 最終行	ed	12.2.8のように式(3)と明確にしてはどうか	次の式で → 次の式(3)で	(3)がなくても明確で、対応国際規格の表現と同じなので、原文通りとする。
加藤	855	13.2.2	第2段落 最終行	ed	減衰“値”ではないのでは？	減衰値 → 減衰比	図1が減衰比なので、対応国際規格が“damping values”となっているが、明確な対応国際規格の間違いなので、修正案通りに修正致します。
藤原	855	13.2.2			「機器の減衰値」は「機器の減衰比」ではないか。	左記で正しければ修正する	
加藤	865	箇条 14	第2段落 2行目	ed	なるべく能動体に	次の推奨事項が、示されている。 → 推奨事項を、次に示す。	修正案に同意致します。
藤原	867	14	b)		最初の「m/s ² の」は不要ではないか。	左記で正しければ削除する	修正案に同意して修正致します。
加藤	877	箇条 14	図 1	ed	図 1 だけ引用されてる箇所に記載されており、他の図は、附属書の前にまとめて記載されている	図 1 を図 2 の前（箇条 20 の後）に移動、又は図 2～図 10 を引用されている箇所に移動	ご指摘に同意致し、図 1 を図 2 の前に移動します。
加藤	879-880	箇条 14	第3段落 図 1 の真下	ed	“及び”や“又は”を用いる	別々に定義するか、水平方向に対して、少なくとも一つのスペクトル、垂直方向に対して、一つのスペクトル → 別々に定義するか、又は、水平方向に対して、少なくとも一つのスペクトル、及び垂直方向に対して、一つのスペクトル	修正案に同意して修正致します。
加藤	903	15.2.1	a)	ed	正当性の証明も“望ましい”でよいのか？ 証明がなくてもよいように読める。	正当であることを証明することが望ましい。 → 正当であることを証明する。	“shall”ではなく、“should”なので、原案通りとする。
加藤	906	15.2.1	b)	ed	正当性の証明も“望ましい”でよいのか？ 証明がなくてもよいように読める。	正当であることを証明することが望ましい。 → 正当であることを証明する。	“shall”ではなく、“should”なので、原案通りとする。
加藤	933	17.2		ed	他の個所の表現に合わせてはどうか	例外が許される → 他の試験波形を使用することが可能である。	箇条 7.2 も「例外が許される」との表現があり、原案通

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

C60068-3-3 コメント及び回答

日付:	規格番号: C60068-3-3	プロジェクト:
-----	-------------------------	---------

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/図/表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
							りとする。
加藤	944	18.2.2	第 1 段落 2 行目	ed	単位と用語を混在させない	oct/分 → oct/min (579 行目はこの表現)	修正案に同意して、修正致します。
藤原	950	18.2.3			18.2.1、15.2.2、18.2.4 は「望ましい」との表現となっている中、18.2.3 のサインビート試験のみ「算出する」となっているが、その理由をご教示願いたい。	質問です	サインビート試験については、箇条 8.3.3 に「ビート波の加速度のピーク値は、試験波形の増幅度と減衰比 5 % での要求応答スペクトルの ZPA とを考慮して、計算される。」との明解に記載されています。
加藤	964	図 2		ed	図中の“ZPA”の記載が点線の右側にあるが、数値としてあるなら、左側の加速度の軸側に記載があった方がよいのでは？	図中“ZPA”の記載を、加速度の軸上に記載	ZPA は、ゼロ周期加速度の意味を明確に表現している原案通りとする。
加藤	989	A.1	第 1 段落 文頭	ed		附属書 A には → この附属書では	対応国際規格通りの表現で問題なく、原案通りとする。
藤原	991	A.1	図 A.1		中央のひし形内の記載は「多重試験」ではなく、「多軸試験」ではないか。	左記で正しければ修正する	「多軸試験」と修正致します。
藤原	991	A.1	図 A.1		上記のひし形の右の四角内、「？」は不要ではないか。	左記で正しければ削除する	不要です。 修正致します。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。